

第 1 号議案

2011年度高麗美術館事業計画案について

上記のことについて、別紙のとり提出いたします。

2011年 3 月21日

財団法人高麗美術館理事長

## 2011年度高麗美術館事業計画について（案）

### ■ 高麗美術館2011年度の事業方針

高麗美術館は、1988年10月25日に開館し、今年で23年を迎える。例年、年間5回の展覧会を開催してきているが、本年度は夏から秋に2つの特別企画展「花卉草蟲展」と「刺繍ポジャギとチョガッポ展」を開催する。特に、高麗美術館にとっては2度目となる韓国刺繍博物館との共催で開催する「ポジャギ展」では、関連のツアーを実施するのをはじめ、いずれの展覧会においても関連事業として参加体験型のイベントを盛り込むなど複合的な展開を図っていく。

なお、本年度においては新公益財団法人への移行をめざして組織及び体制の整備、強化を図り、新たな財団に向けて一層の発展に努めていくこととしている。

#### 1 高麗美術館展覧会の開催

詳細、別添《2011年度 展覧会スケジュール》のとおり

(1)	2011年4月2日(土)～7月10日(日)	開催日数
	コレクション名品展① 「朝鮮のかわいいいれものたち展」	[85日]
(2)	7月16日(土)～8月28日(日)	
	特別企画展① 「花卉草蟲 一花と虫で綴る朝鮮美術展」	[38日]
(3)	9月3日(土)～11月6日(日)	
	特別企画展② 「刺繍ポジャギとチョガッポ展」	[56日]
(4)	11月12日(土)～12月24日(土)	
	2012年1月7日(土)～1月29日(日)	
	コレクション名品展② 「朝鮮陶磁の美展」	[57日]
(5)	2月4日(土)～3月25日(日)	
	コレクション名品展③ 「朝鮮 木のもの100選展」	[44日]
		開館日数[280日]

<(3) 特別企画展関連ツアー>

「韓国・ポジャギの旅」 2011/10/12(水)～10/15(土) [3泊4日]

ソウル市内の刺繍博物館等を巡る

募集定員：30人

2 「高麗美術館研究講座」の開催

年間テーマを設定し、4回シリーズとして佛教大学四条センターとの提携により実施している。今回のテーマは、「生誕120年 浅川巧を知る」。

1914年、日韓併合まもない植民地下の朝鮮に兄・伯教を慕い、朝鮮に渡った浅川巧(1891～1931)は朝鮮総督府林業試験場に勤務、山野の緑化に取り組むとともに、朝鮮の陶磁器や木工芸の美を探求した。朝鮮の暮らしの中で、朝鮮語を学び、人々と親しく交流し、愛された浅川巧。高麗美術館では昨年度、特別企画展として先駆的に「浅川伯教・巧が愛した朝鮮美術」展(2010年6月12日～8月15日)を開催したところであるが、本年は、生誕120年という節目の年に当たることから、あらためて浅川巧にスポットをあて、多角的にその人物像に迫ってみる。

◆日程 年度内4回、各回土曜日 13:00～14:30(90分)

◆会場 佛教大学四条センター(四条烏丸北東角)

◆定員 150人 受講料 有料(会員は無料)

《2011年度高麗美術館研究講座「生誕120年 浅川巧を知る」》

(1) 2011年5月28日(土) 高崎宗司先生 (津田塾大学教授)

「浅川巧生誕120年を迎えて—人物像と生涯」

(2) " 8月27日(土) 李 尚珍先生 (山梨英和大学助教)

「浅川巧と兄伯教—日本と韓国のマウメダリ(心のかけ橋)」

(3) " 11月19日(土) 杉山享司先生 (日本民藝館学芸部長)

「浅川巧と柳宗悦—その出会いと活動」

(4) 2012年2月25日(土) 李 須恵氏 (高麗美術館研究員)

「浅川巧が愛した朝鮮の美—『朝鮮の膳』『朝鮮陶磁名考』」

別添《2011年度 展覧会スケジュール》裏面 参照

### 3 『高麗美術館館報』の発行

年間3回、1回2,000部 発行

発行予定時期：2011年5月、9月、2012年1月頃

### 4 収蔵資料の修復

1件

○ 花鳥図六曲屏風 各扇100.0 × 39.0cm 朝鮮時代18世紀

・ 破損等の状況 日本製の金屏風に貼り付けられている状態の上、蝶番の損傷により左一扇目が離れた上体であり、展示公開が困難

・ 修復の経費(見積) 約190万円[うち、朝日新聞文化財団から80万円助成あり]

・ 修復の時期(予定) 2011年7月